

上越市立清里小学校

いじめ防止基本方針

平成 26 年 6 月策定

1 いじめの定義

「いじめ」とは、「児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的または物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているもの」をいう。

2 いじめ防止に向けた方針

- (1) あらゆる教育活動を通じ、だれもが安心して豊かに生活できる学校づくりを目指す。
- (2) 児童が主体となっていじめのない子ども社会を形成するという意識を育むため、児童が発達段階に応じていじめを防止する取組が実践できるように指導・支援する。
- (3) いじめは、どのクラスにも、どの児童にも起こりうることを強く意識し、いじめを未然に防ぎ、いじめが発生した場合は早期に解決できるよう保護者ならびに地域や関係機関と連携し、情報を共有しながら指導にあたる。
- (4) いじめを絶対に許さないこと、いじめられている児童を守り抜くことを表明し、いじめの把握に努めるとともに、校長のリーダーシップのもと組織的に取り組む。
- (5) 相談窓口を明示するとともに、児童生徒に対して定期的なアンケートや個別の面談を実施するなど、学校組織をあげて児童一人一人の状況把握に努める。

3 児童の実態

当校の児童は、素直で思いやりのある言動が多く場面で見受けられる集団である。社会規範に対しては、決して高いとは言えないが、全体指導や個別の指導が浸透しやすい面をもっている。

しかし、どの学年でも、友達に対する乱暴な言動や心無い言葉がけが少なからずある。校内での落書きもゼロではない。学年を超えてのトラブルや女子のグループ化によるトラブルも年間に数えるほどではあるが数回見られ、双方の児童や担任を交えての聞き取りや指導が必要となっている。

4 指導の重点

- (1) 正・不正を明確にし、守らなければならないことの意義を考え規範意識を高める。(思考・判断力)
- (2) 児童が自分の力を発揮し、自信を高める場を見つけられるように支援する。(自己有用感、存在感、肯定感)
- (3) 相手の立場に立って思いやる心、人の心の痛みが分かる心の教育を推進する。(コミュニケーション能力)

5 重点達成のための方策

- (1) 正・不正を明確にし、規範意識を高めるために
 - ・「明るく楽しい清里っ子の8か条」の意義を話し合い、家庭・地域での生活においても判断のよりどころとするよう常に意識させる。

- ・危険回避能力を高め、危険な行為をしないよう具体事例を取り入れながら繰り返し指導をする。
- ・年度当初や学期始めに限らず、大きな行事の前後に学習や生活の基本的ルールの見直しを行い、安心、安全な学級の中で前向きに活動する学級を目指す。
- ・長期休業や連休前の生徒指導の重点について、学級活動の時間に繰り返し徹底した指導を行う。
- ・生活目標を児童に意識づけ、児童会主催の活動を盛り込みながら、児童が主体的によい行動ができるように支援する。

(2) 児童が自分の力を発揮し、自信を高める場を見つけられるように

- ・縦割り班活動や児童会行事を通して、互いの違いや良さを認め合い、自分の役割を果たしたり活躍したりできるよう支援する。また、職員が同じ目的をもって全校の指導にあたるよう、年間の活動計画（後述）を作成する。
- ・学級内で個に応じた役割（当番・係活動）を保障したり、一人一人が評価される活躍できる内容や場面を多く設定したりして、児童の存在感や学級への所属感を高める。

(3) 相手の立場に立って思いやる心、人の心の痛みが分かる心を育てるために

- ・4月と9月に「あいさつ週間」6月と11月に「ハートフル週間」を設け、児童主体の活動を推進する。
- ・道徳教育、人権教育、同和教育の推進を図り、互いの人権を尊重し、思いやりの心を育て、いじめの防止に努める。（わたしたちの道徳に関して小中および保護者との連携をとる。「えがお」の冊子を活用した授業を行う。）

6 学校におけるいじめ防止等の対策のための組織と運営

(1) 「いじめ・不登校対策委員会」の構成と運営

- ①委員会は、校長・教頭・教務主任・生活指導主任・該当学級担任・養護教諭で構成し、適宜開催する。
- ②不登校ならびに不登校傾向などの情報交換については、委員会開催を待たず必要に応じて職員に周知し全体で当該児童を見守る。

(2) 早期発見に係る組織

①教職員間の情報交換

- ・些細なことでも気になることを声に出せる職員間の体制
- ・保健室や学校訪問カウンセラーからの情報提供とその共有
- ・児童、保護者からの情報の活用

②教育相談体制

- ・心配される児童への定期的な相談の実施
- ・学校訪問カウンセラーによる相談体制の確立と、教頭をはじめとする担当への報告・連絡・相談の徹底

③特別支援教育コーディネーター

- ・児童の実態把握と適切な支援への助言
- ・支援が必要となる児童への個別の対応体制づくり

【学校におけるいじめのサインの例】<指導の指針より>

- 急な体調不良 遅刻や早退の増加 授業開始前の机、いす、学用品の乱雑さ
- 学用品、教科書、体育着の紛失 学用品の破損、落書き 授業への遅参
- 保健室への来室の増加 日頃交流のない児童との行動
- 発言や言動に対する皮肉や失笑、笑いの頻発 多数児童からの執拗な質問や反駁
- 図工や家庭科、書写等での衣服の過度な汚れ 行間や休み時間の単独行動
- 特定児童の発言へのどよめきや目配せ 突然のあだ名
- 特定児童からの忌避、逃避 特定児童の持ち物からの逃避 等

(3) 地域・家庭・関係機関との連携

①家庭との連携

- ・学校だよりや学年だよりによる子どもたちの活動の広報
- ・いじめ等に係る学校の考え方の周知（PTA総会や諸会合，学校だより等で）

【家庭でのいじめのサイン例】<指導の指針より>

- 登校しぶり 転校の希望 外出の回避 感情の起伏の顕著化
- 教師や友達への批判増加 隠し事の発覚 家庭でのお金の紛失
- 荒くなる金遣い 隠し事の発覚 長時間の長電話や過度に丁寧な対応
- 衣服の不必要な汚れ 体への傷やいたずらの痕跡
- 保護者来校の拒絶 過度なネットへの対応 他

②地域との連携

- ・学校だよりによる教育活動の広報と周知
- ・登下校時の交通指導，地域子ども会でも活動を通した児童の実態の情報交換
- ・地域連携「子どもを知る会」…主任児童委員，民生児童委員，学校職員

【地域で見られるいじめのサイン例】<指導の指針より>

- 登下校中に特定児童が、他の児童の荷物等を過度に持つ。
- 一人だけ離れて登下校している。 故意に遅れて登校している。
- 地域の公園や道路、空き地等に一人でぼつんとしている。
- 公園や空き地等で、一人の子を何人かで取り囲み、言い合ったり、こづいたりしている。
- コンビニや地区の商店等で、物品や飲食料をおごらされている。 等

③専門機関との連携

- ・必要により，児童相談所，市すこやかな暮らし支援室，適応指導教室と連携して解決にあたる。

(4) 児童に関する情報の共有化と児童理解

- ①「子どもを知る会」資料による情報の共通化
- ②「なかよしアンケート」による児童理解
- ③Q-Uアンケートによる児童ならびに学級集団の実態把握（6月）と活用

7 いじめに対する具体的な措置

【独自の判断は禁物！素早く対応】

- ×「様子を見よう。」「悪ふざけだろ。」「単なる喧嘩だろう。」…の考えは捨てる。
- 『いじめは絶対に許されないもの』との認識に立つ。
- 『早期発見かつ即時対応』と『組織的対応』の認識に立つ。
- 『いじめられている子どもの側に立つ』ことを大前提にして判断する。
- 『小さい芽を小さいうちに摘む』ことを重視する。

さ…最悪のことを想定
し…慎重に
す…素早く
せ…誠実に
そ…組織で対応

(1) 素早い事実確認

①速やかな報告の徹底

- ・担任，現状目撃者等の情報受信者 → 担任等 → 教頭・生活指導主任 → 校長 のルートで情報や状況を直ちに報告する。

②いじめ・不登校対策委員会

- ・事実確認の計画

事実確認のための役割分担

◇被害児童への聞き取り

- *教職員は，被害者の視点に立ち『味方』となって支える立場で接する。
- *いじめられていることを語りたがらない場合は，時間を重ねていくことを考慮しあせらずに気持ちに寄り添って話を聞く。

◇加害児童への聞き取り

- *いじめを行っているときの気持ちなどについて話をさせる。
- *いじめと感じていなかったり認めようとしなかったりする場合は，威圧的にならず，受容的に聞く。

◇周辺児童への聞き取り

- *事実を確認するこの段階では，周辺児童の行動に対する善悪の判断はしない。
- *内容に矛盾がないかどうか慎重かつ多面的に検討し，事実を明らかにする。
- *事実確認終了後，時と場を考慮して必要な指導を行う。

◇被害児保護者，加害児保護者に対して

- *保護者とは直に会って面談を行う。
- *保護者の立場や心情に十分に配慮し，現状と今後の具体的な説明をする。
- *保護者の心配していることを明らかにして，終息に向けた今後の見通しについて説明する。

8 いじめ防止と心の育成に関する年間計画

時期	達成目標	行事・活動名	具体的な内容	いじめ防止の観点
4月	自分の班のメンバーの名前を覚えることができる。 他の学年の友達とあいさつを交わすことができる。	稲文字オリエンテーション	縦割り班の顔合わせ 稲文字のデザインを相談して決める。	あいさつや、身体接触を誰とでも同じようにしている。
		1年生を迎える会 なかよしデー	縦割り班でのゲーム 縦割り班お弁当会食 お昼休みの遊び	
		あいさつ運動	通学班を主体とした朝のあいさつのしかたのSSE	
5月		田植え	縦割り班で協力し、担当した文字の田植えをする。	相手の名前を正しく呼んでいる。
		運動会	縦割り班種目の練習(全校種目とダンス) 赤白の応援で、全学年で声と心と力を合わせる。	
6月	互いの名前を呼びながら仲良く協力して活動できる。 (遅くとも6月中には班のメンバーの名前を確実に覚える。)	オリエンタリング遠足	目的地まで一緒に歩く。ゴールまでの間で、ゲームを一緒に楽しんだり、励まし合ったりする。	上学年は下学年に丁寧に教え、下学年はその教えや指示に従っている。 体育館やグラウンド、体育用具を譲り合っている。
		音楽朝会	6年の発表と縦割り班を活用した朝会。6年のよさを認めたり、縦割り班で協力しながら楽しんだりする。	
		第1回大縄跳び大会	全員で目標回数を決め、練習をする。当日は、ふわふわことばを使って跳んだり、応援したりする。	
		なかよしデー	互いの名前を呼び合って活動する。	
		スポーツテスト	縦割り班ごとに種目移動をする。効率よく進めるために協力し合う。	
7月		音楽朝会	5年の発表と縦割り班を活用した朝会。5年のよさを認めたり、縦割り班で協力しながら楽しんだりする。	誰とでも協力している。 児童会行事を楽しんでいる。
		稲文字かかし作り	かかし作りについての話し合いと制作	
		児童朝会	縦割り班を生かした活動	
		清里小サマフェス	全校で楽しむ夏のイベント。ミニ音楽発表会では4年の学年発表と、エントリー制によるグループ発表。 自主性を尊重し、互いのよさを認め合う。	
9月	誰とでも進んであいさつを交わすことができる。	あいさつ運動	全校SSEで温かいメッセージについて理解する。 児童が主体となり、1学期よりさらによいあいさつを目指す。	あいさつや、身体接触を誰とでも同じようにしている。

	自分の責任を果たし、仲間とコミュニケーションをとりながら活動を進めることができる。	音楽朝会	3年の発表と縦割り班等を活用した朝会。	休み時間に居場所や、することがある。(固定グループになっていないか。)嫌なことや苦手なことにもチャレンジしようとする。
		稲刈り、はさかけ	担当する場所の稲刈り、稲まるけ、稲運び、はさかけ	
		なかよしデー	お昼休みの活動	
10月	(上学年は下学年のお手本となり、下学年は上学年に従いながら、自分の思いを伝える。	なかよしボランティア	グラウンドやマラソンコースなどの環境整備活動を協力して行う。(草取り、ゴミ拾い、石拾いなど)	
		マラソン大会	縦割り班の友達を中心に、応援の掛け声をかける。上学年は、応援席で下学年のお世話をする。	
11月	互いに自分の役割を果たすとともに、友達によさや頑張りを認めることができる。	ハートフル週間	思いやりや人権を柱として行動目標を決め、全校に呼びかける。	校内の基本的なルールを守っている。 友達にふわふわ言葉で接している。
		なかよしデー	遊びや奉仕作業など、天候や校内の状況に合わせて活動する。	
		読み聞かせ集会	班単位の読み聞かせ集会 (高学年が絵本や紙芝居を読む)	
		収穫祭	収穫したお米を使って縦割り班でおいしく食べる。縦割り班単位のゲームなどを取り入れる。稲文字づくり全体を通してメッセージを書き合う。	
12月		音楽集会	エントリー制で、歌や演奏、ダンスなどの発表をする。発表者は相手意識をもって発表し、見る側は素直によさを認めながら楽しむ。	友達を誘い、みんなで楽しもうとしている。
		ドッジボール大会	自発的にチームを作り、エントリー制でゲームをする。参加しない児童は自主的に応援する。	
1月	縦割り班のメンバーのよさや頑張りを認めたり、感謝したりすることができる。	あいさつ運動	時と場に応じたいろいろなあいさつのしかた。とくに感謝の気持ちの伝え方についてのSSE。おはようやありがとうがあふれる校内を目指す。	誰に対しても同じように、返事やあいさつをしている。
音楽朝会		1年の発表。全校で身体表現等を取り入れ楽し。		
2月		第2回大縄跳び大会	記録更新の目標に向かって練習する。	学校のことを大切にしている。行事を楽しんだり、一生懸命に取り組んだりしている。
		音楽朝会	2年の発表と、縦割り班等を活用する最後の音楽朝会。	
3月		なかよしデー	6年生との最後のなかよしデーにふさわしい活動を考え、なかよく行う。	
	6年生を送る会	縦割り班ごとのプレゼントやゲーム		
	卒業式呼びかけ	呼びかけを通して、1年間の活動を振り返り、互いに感謝の気持ちをもつ。		

